

二 次の文章を読み、あと(1)～(5)の問いに答えなさい。

次は、「待ちぼうけ」という童謡のもととなつた故事が書かれた文章とその現代語訳である。

株を守る

宋人に田を耕す者有り。田中に株有り。兎走りて株に触れ、頸を折りて死す。因りて其の耒を积てて 株を守り、冀 復得 兔。兎復た得べからずして、身は宋国の笑ひと為れり。

(『韓非子』による。)

宋の国人で田を耕す人がいた。田の中に切り株があつた。兎が走つてその株に当たり、首を折つて死んだ。それがきっかけでその人は耒を捨てて □、また兎が手に入ることを願つた。兎は二度と手に入れることはできず、□。

(1) 〈内容把握〉 文章中に A 其の耒を积てて とあるが、田を耕す者

の行動を説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 切り株を掘り起こすのをやめて、兎を追いかけた。

イ 切り株に当たつた兎を助けるために、耕作を中断した。

ウ 手に持つていた耒を振り回して、兎をしとめた。

エ 使つていた耒を放り出し、田を耕すのをやめてしまつた。

(2) 〈内容把握〉 文章中の B 株を守り の意味として最も適当なもの を、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 切り株を見張り

イ 切り株に囲いをつけ

ウ 切り株の周りを耕し

エ 切り株を傷つけないようにし

(3) 〈返り点〉 文章中の C 冀復得兎 が「復た兎を得んことを冀ふ」

と読めるように、次の「冀 復 得 兔。」に返り点を付けなさい。

冀 復 得 兔。

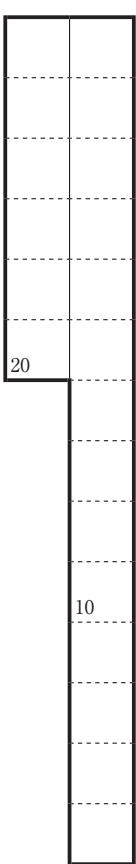
(4) 〈動作主〉 文章中に D 身は宋国の笑ひと為れり とあるが、これについて次の(a)、(b)の問い合わせに答えなさい。

(a) 誰のことであるかを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 田を耕す者 イ 兎

ウ 切り株 エ 耒

(b) 〈内容把握〉 その人がどうなつたかを、「……じゅうの……」という形を使って、十字以上、二十字以内で書きなさい。



10

(5) 次は、この文章を読んだあとに、前さんと島さんが故事について話し合っている場面の一部です。これを読み、あとの(a)、(b)の問い合わせに答えなさい。

前さん この文章は、田を耕す宋人の愚かな行動を中心に書かれているね。

島さん そうだね。「宋人」というので、「助長」という故事成語が浮かんだよ。生育を助けようとして苗を引っ張つて枯らしてしまった人の話だよ。これも「宋人」だった。

前さん 宋人の話は、ちょっと残念な人の例として残っているんだね。物語に不特定の人が出てくる場合、日本だと「昔男ありけり」で始まるもの有名だけど、中国だと「宋人」とか「楚人」とか、どこの国の人かとなるんだね。

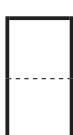
島さん 「楚人」と言えば「I」を思い出すね。

前さん 何でも突き通せる矛と、絶対に突き通せない盾を同時に売っていた話だね。これは論理の隙を突かれた感じで、愚かにしても質が違いそうだよ。

島さん なるほど。隙があるというのは、ほかはきちんと理屈に合っているということだものね。「守株」や「助長」の場合は、II 感じがする。

前さん それなら意味が近いのは「蛇足」かな。蛇の絵を早く描く競争で一番に描き上げておきながら、足を付け加えて失格になつた。これも楚の国の話だつたよ。

(a) 〈文脈〉 I に入る故事成語を、漢字二字で書きなさい。



(b) 〈主題〉 II に入る説明として最も適当なものを、次のア

イ 工のうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 目標として考えていることが小さすぎて、そのあと取り組む大げさなしかけに見合っていない

イ 正直にこつこつと働けば生活していくのはずなのに、少し余分に欲を出したためにうまくいかなかつた

ウ 行動から導き出される結果の予想が間違つていて、余計なことを考えてかえつてよくない結果を招いた

エ 一生懸命考えて立てた計画には間違いがないのに、それを実現させる才覚がなかつたために失敗した



### 三 次の文章を読み、あとの(1)～(6)の問い合わせに答えなさい。

ア やんごとなき人<sup>A</sup>にはかにいたづきにかかりけり。たやすからぬ  
高貴な人<sup>B</sup>病気<sup>C</sup>なりければ、今、イ このくすし一人に任せんもいかがなり、ウ 彼もくすし

様なりければ、今、イ このくすし一人に任せんもいかがなり、ウ 彼もくすし  
もう一人の医者

の道には世の常ならねば、これと心を合わせて、薬調ぜよと言へば、

初めのくすし頭<sup>D</sup>ふりて、さらば、その世の常ならぬ者<sup>E</sup>に任せたまへ、

かかるとみのいたづきを療治せんに、人を語らひてはいかで出で来べ  
人と話し合つてどうしてできようか

きと言ひければ、げにもとて初めのに任せてければ、そのいたづきも  
ななるほど

すみやかに怠りぬ。  
快復した

(松平定信『花月草紙』による。)

(1) 〈仮名づかい〉 文章中の にはかに を現代仮名づかいに改め、  
全てひらがなで書きなさい。

\_\_\_\_\_

(2) 〈内容把握〉 文章中の 世の常ならねば の意味として最も適当  
なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

- ア 人並なので イ 風変わりなので  
ウ 優れているので エ 常識がないので

\_\_\_\_\_

(3) 〈内容把握〉 文章中に これと心を合わせて、薬調ぜよ とある  
が、こう言つた理由として最も適当なものを、次のア～エのうちか  
ら一つ選び、その符号を答えなさい。

C

\_\_\_\_\_

- ア 急な病氣で、正式なくすしに頼むことができなかつたから。  
イ 高貴な人なので、くすしが二人いてどちらも譲らなかつたから。  
ウ 病状がわからず、どのくすしがふさわしいか決めかねたから。  
エ 病状が難しく、一人では対処できない心配があると思つたから。

(4) 〈内容把握〉 文章中の 頭ふりて が意味していることを表す熟語として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

- ア 拒否 イ 思案  
ウ 感心 エ 承諾

\_\_\_\_\_

(5) 文章中に 初めのに任せてければ とあるが、これについて次の(a)、(b)の問い合わせに答えなさい。

(a) 〈内容把握〉 「初めの」は、文章中の やんごとなき人<sup>A</sup>、イ このくすし、ウ 彼、エ その世の常ならぬ者<sup>E</sup>のうちのどの人物か。ア～

エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

\_\_\_\_\_

(b) 〈内容把握〉 このようにした理由を、「という言葉に納得した  
から。」に続くように、十字以上、二十字以内で書きなさい。

10  
20  
という言葉に納得したから。

(6) 次は、この文章を読んだあとに、浜さんと岡さんがこの作品について話し合っている場面の一部です。これを読み、あの(a)、(b)の問い合わせに答えなさい。

浜さん この作品は、急に病気になつたときの対応について、医者とのやりとりを中心に書かれているね。

岡さん そうだね。このお話から、「人を疑いては使う勿れ、人を使うては疑う勿れ」という言葉が浮かんだよ。<sup>なか</sup> 疑うくらいならその人を使わないほうがいいし、その人を使ふと決めたからには疑わないほうがいいという中国の言葉だよ。

浜さん なるほど。私は、「船頭多くして船山に上る」ということわざを思い浮かべたよ。船操る船頭が多いと、船が方向を誤つてとんでもないほうへ行つてしまつという意味だよね。方針を決めるのに口を出す人が多いと混乱するから、指示を出す人は一人でないと難しいだろうね。岡さん どちらも一人に任せたほうがよいという考え方だね。でもこれは、現代で言うとセカンドオピニオンを求めるということだよね。そう考えると、必ずしも悪いことではないと思うのだけれど。

浜さん 病気が緊急でないならそうだね。この場合は「にはかに」だから容体が急変しているし、すぐに手を打たなければいけないということだろうな。病気になつた本人ではなく、そば仕えの人か誰かだろうけど、結局は納得して、  という結末になつてゐるね。

(a) 〈返り点〉 人を疑いては使う勿れ、人を使うては疑う勿れについて、そのように訓読する場合、返り点の付け方として正しいものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 疑 <sub>イテハ</sub>  
レ 二 人 <sub>ヲ</sub> 勿 <sub>レ</sub> 使 <sub>ウ</sub> 、 使 <sub>ウ</sub> 人 <sub>ヲ</sub> 勿 <sub>レ</sub> 疑 <sub>ウ</sub>  
イ 疑 <sub>イテハ</sub>  
ウ 疑 <sub>イテハ</sub>  
エ 疑 <sub>イテハ</sub>  
人 <sub>ヲ</sub> 勿 <sub>レ</sub> 使 <sub>ウ</sub> 、 使 <sub>ウ</sub> 人 <sub>ヲ</sub> 勿 <sub>レ</sub> 疑 <sub>ウ</sub>  
人 <sub>ヲ</sub> 勿 <sub>レ</sub> 使 <sub>ウ</sub> 、 使 <sub>ウ</sub> 人 <sub>ヲ</sub> 勿 <sub>レ</sub> 疑 <sub>ウ</sub>  
人 <sub>ヲ</sub> 勿 <sub>レ</sub> 使 <sub>ウ</sub> 、 使 <sub>ウ</sub> 人 <sub>ヲ</sub> 勿 <sub>レ</sub> 疑 <sub>ウ</sub>

(b) 〈内容把握〉   に入る言葉を、十字以上、二十字以内で書きなさい。

